

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2020.3) 令和元年度:69.

患者誤認報告事例の分析～3年前の報告との比較から

今野 真都佳, 北川 佳奈子, 岩田 達也, 林 達哉

患者誤認報告事例の分析～3年前の報告との比較から

旭川医科大学病院 医療安全管理部 ○今野真都佳 北川佳奈子 岩田達也 林達哉

【目的】患者確認は重大事故に結びつく可能性があり、A病院においても患者確認について職員および患者家族への啓発活動を実施しているが、患者誤認報告は減少しない。患者誤認報告事例を2018年度と2015年度で比較し、誤認防止対策について検討した。

【方法】2015年度および2018年度に報告された患者誤認報告を分析する。

【結果】報告件数は同数であった。最も多いのは、薬剤に関する事例であり、全体の約4割をしめ、ついで書類や検査データ等の取り扱いに関するも事例が約2割であった。直接患者に接しないところで発生している事例が2015年度は37%であったものが2018年度は45%と増加していた。また、患者影響なしあるいは未然防止の事例が2015年度23%から2018年度39%であった。PDAで照合すれば防止できる、採血、注射・点滴、X線検査は減少し、患者とともに名乗ってもらう、患者にも確認してもらえば防止できる事例が増加していた。

【拷案】患者影響なしあるいは未然防止事例の報告が増加し、患者誤認に対する安全意識は向上している。薬剤に関する事例については、PDAで照合できる注射と異なり、内服薬や吸入、外用薬においては「人」が実施する確認であり、確実な患者確認実施は難しい。患者影響の大きい事例報告はなく、各人各部署において薬剤特性やリスクに応じた対策を実施していることが示唆される。それぞれの部署における創意工夫や視点を共有し、質の高い患者確認、防止対策の定着へむけた取り組みを実施する。